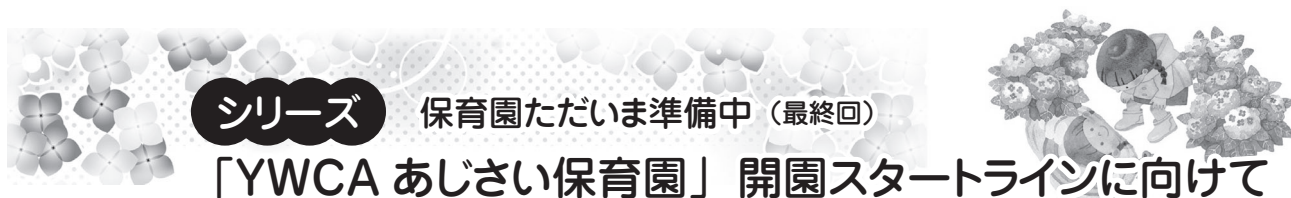




京都 YWCA

3 2020

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。



開園に向けて着々と

京都 YWCA あじさい保育園の園舎の建設は着々と進んでおり、内装の色合わせやカーテンなどのインテリアの最終打ち合わせも終わり、今は3月の完成を待つばかりとなりました。

1月末には京都市の新設保育園向け説明会に参加し保育所指針、食育、乳幼児の健康管理、事故防止及び報告、監査などについての指導を受けました。

また、共に働いてくださる保育士さん、調理師さんのメンバーも揃い内部体制も整いつつあり、3月7日の第98回定期会員集会后には第1回目のあじさい保育園職員オリエンテーションを予定しております。

3月には「YWCA あじさい保育園」への年齢別の園児数も決定されるので、本格的に子どもたちを受け入れる作業に取り掛かっております。

会員の協力を得ておもちゃを手づくり

園で子どもたちが使う玩具や絵本、子ども図鑑などの寄贈をお願いしておりますが、おもちゃ作りでも会員の方々の協力を得ています。

京都 YWCA のうららかふえで針仕事を持ち寄って楽しむ「ちくちくカフェ」に布やフェルトを使ったおもちゃ作りをお願いしたところ、カフェ当日には大勢の方がお集まりくださり、トマトやキュウリ、おにぎり、ホットケーキなどの製作に挑戦してくださいました。本当に感謝しております。



あじさい保育園

保育園のロゴができました！



(上) 室町通からの園舎 (左) 手作りおもちゃ (右) 中庭からみた園舎

子どもたちのことを思い浮かべながら「子どもに安全ようにね」「きっと、これを見たら子どもたち、喜ぶだろうね」などお喋りしながら針を動かしてくださいました。まだ見ぬ子どもたちへの温かい想いに触れ、お支えくださることの心強さを感じるとても素敵なお集まりでした。これからもこのような交流の場を大切に、それが繋がっていけばと願っています。

生後大切に育ててこられた子どもを託してくださる保護者の皆さん、子どもたちを見守り保育にあたる保育士、職員の皆さん、そして保育園を見守り、お支えくださる会員の皆さんと共に2020年度4月1日の「開園スタートライン」を笑顔で踏み出せることを願い、その光景を想い描きつつ、心を引き締め日々の歩を進めております。

スタートラインまであとひと踏ん張りです！

河合由美子（あじさい保育園 主任保育士）

沖縄スタディツアーに参加して

伊江島から辺野古へ——沖縄の過去と現在を学ぶ旅



例年になく暖かい年末にさらに暖かい南国の沖縄へ、平和環境を考えるツアーに参加した。グループ「ほーぼのぼの」で昨年沖縄について学習した集大成である。

到着翌日には、沖縄YWCAのメンバーと交流、若者支援や多文化活動、カフェの話題で賑やかな時を過ごした。教会関係で辺野古のボート手配をしていただきYWCAネットワークの力を感じた。

伊江島の命どう宝（ヌチドゥタカラ）資料館では、創立者の阿波根晶鴻（あはごんしょうこう）さんの活動、歴史などについて謝花悦子さんよりお話しいただいた。土地の多くがアメリカの基地となり、伊江島で農地を追われ闘争していた記憶が語られ、今もまだ基地が残る中で住民が分断される政策が続いていると話された。

資料館は手づくりで、遺品や資料はケースに入らず生々しく訴えるように展示されている。80年代のどこかの組合の赤い徽が印象的。謝花さんは訪問者に向かい「活動頑張ってください！」と言われ、宿題をいただいた。訪れる人を増やし記憶を残すことが課題と感じた。

伊江島は平たい島に、ひとつだけ飛び出したような丘があり不思議な地形で、伊江牛、伊江ラム酒など美味しく頂いた。

辺野古へ行く道中、キャンプシュワブの正門はお正月休みで座り込みはなかったが、普段は体を張ってダンプを止める事があり、休

日も警備員がいた。辺野古ではテントを張って、訪問者に説明する活動がずっと続けられていた。ボートに乗り基地見学の折には、幾度となく「区域に入るな」の警告を受けながら海上でのティータイム。長い運動にはしなやかさが必要と感じる。

環境体験キャンプでは電気ガス水道なしを体験した。飲み水と食べられる植物、海の幸があればサバイバルできるのではと感じた。

最後の訪問は普天間基地の一角に突き出た佐喜真美術館だった。丸木位里・俊夫妻の戦争の図。二つの生死の分かれた対照的なガマの図によって戦争とセットの天皇制がくっきりと表わされていた。

盛りだくさんの内容に、トラブルもなく感謝。ツアーがあればぜひ参加をお勧めいたします。（青野美佐江）



辺野古海上行動の後、テント前で

いま福島の人たちに必要とされる支援

1月17日、うららかふえにて東日本大震災避難者支援団体「みんなの手」の西山祐子さんをお招きして、福島の人たちへの支援についてお話を聞きました。これは、毎年被災地の子どもたちを対象とした保養プログラムを行なっている平和・環境活動委員会が、「今求められている支援に私たちは応えられているのか」という疑問から企画されました。

ご自身も被災者である西山さんのお話は、福島の人たちが求めてきた支援の経緯を、事故直後から現在まで辿っていくもので、体験に基づいた説得力のあるものでした。一連の話のなかで印象的だったのは、現在の福島の人たちは、抱えている不安は口にしづらくなり、心の奥底に沈んでいる状況にあるということでした。事故から時間が経過した今も、自主避難者と現地に残留した人たちとの間の溝も埋まらずにある。そうしたなかで、被災者の人たちがそれぞれの決断をリスペクトしようという西山さんの姿勢は、非常に真摯なものだと感銘を受けました。

一方で、西山さんは、支援者が「こうしたい」という思いと被災者の要望が一致しない場面に何度も出会ったそうです。また、国や県からの支援は充分にされていると考え、

この事故をバネに、より良い出会いや人生を求める西山さんの姿勢は、関西の支援者がイメージしていた「怒り悲しむ被災者」像とは乖離^{かいり}していたこともあったようです。イメージの乖離が影響してか、その支援者との関わりがなくなることもあったとも仰っていました。

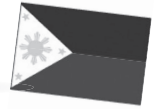
こうしたお話を聞いていて、私は支援者側の欺瞞性について考えざるを得ませんでした。私たちは常に福島の人たちと目を見て話をして、その求められていることと活動内容が乖離していないかを問い続けていかなければなりません。それは、事故直後に求められたような、わかりやすい支援が必要でなくなった現在、非常に大事なことだと思います。

（片岡英子）





「多文化カフェ」～フィリピンを知ろう！～



2月1日、多文化共生委員会主催で「多文化カフェ」を京都YWCA「うららかふえ」にて開催しました。今回は「フィリピンを知ろう！」と題して、「フィリピンの美味しい家庭料理 + Talk - Café」を企画しました。ランチのメニューはフィリピンの肉や野菜の煮込み料理アドボ、タマリンドを用いた酸味のあるスープのシニガン、バナナ春巻きでした。また、フィリピンからのお土産も販売しました。

ランチ後のTalk - Caféでは、フィリピン出身で京都市在住の技能実習生4人によるお話が、このプログラムの企画者である築瀬さんの司会のもと進められました。3年の技能実習期間のうち1年が過ぎた20代の方2人、3年目の30代の方2人は同じパン製造会社で働き、隣接の寮に住んでいます。あらかじめお伝えしていた、①地元について ②日本で働くことになった経緯 ③仕事について ④日本での生活について、という質問に通訳を介して話していただきました。

②の質問には「フィリピンにいる家族のために、夢のために働く」、③については「夜勤（夜中の1時～昼12時迄）で働く時間が長く、フィリピンでは手仕事だが、日本は機

械でするので初めはしんどかった」、④に関しては、言葉の壁が大きいようでした。その後の質問タイムで「夢は何か」という質問には、「何かビジネスをしたい」「パン屋さんをオープンしたい」などがありました。

終始にこやかに語ってくれた彼らでしたが、築瀬さんからは、彼らと同じ職場で働く日本人従業員から、「日本語が分からないことをいいことに、暴言を吐いたり、きつい仕事をやらせたりする日本人従業員や、ミスをして怒られても、なぜ怒られているのかわからずにいる彼らを見るのがいちばん辛い」という話を聞いたと話されました。

帰り際に「じゃあ、また」と日本語で挨拶してくれた彼らの笑顔。この笑顔が消えることなく、彼らの夢が叶うことを願わずにはいられません。

（一色光世）



ひさびさにスリフトセールを開催！

1月18日にファンドレイジング委員会主催でひさびさにリサイクル市「プチスリフトセール」を開催しました。

品物は厳選して、冬物の衣類、アクセサリ、賞味期限の1ヵ月以上ある食品を中心に、以前とは違った小規模の催しでした。品物の募集は、会員・会友・ボランティアの方々に限定で行いました。1ヵ月余りで、会場であるミニホールのサイズに見合う数の品物の寄贈がありました。当日は並行して、ロビーでは着物リフォーム品の販売があり、京都コリアン生活センター「エルファ」のお菓子も並びました。東京YWCAの関連施設の手づくりアクセサリ販売もあり、うららかふえでのランチも盛況で、多くの人が行きかう一日となりました。

来場者はかつてのスリフトセールとほぼ同じくらい（約70名）で、事前に近隣に配布したチラシで知った方、京

都YWCAのホームページを見て初めて来られた方や、おなじみの顔も見られました。

「またやってください」「今度は、いつですか？」と今後への期待の声もいた



前日準備の様子

だきました。

ロビーでは継続しての販売を期間限定で行っています。当日、足を運ばなかった方、会館利用者にも好評です。

また、提供いただいたものの一部（冬物衣類）を「京都夜まわりの会」と、福島県いわき市で台風19号の被災者支援をしているNPO法人「ザ・ピープル」に、京都で活動する一般社団法人「みんなの手」を通じて届けるようにしました。

今回を振り返り、スリフトセールがYWCAに携わる人々の居場所であることを改めて感じました。これからも出会いと協働の場としてスリフトセールを活かしていきたいと思います。今後にご期待ください。

（弘中奈都子）

今後のプログラム

◎第 98 回定期会員集会

- 日 時：2020 年 3 月 7 日（土）13：00～16：30
 ■主 題：「いのちを選びなさい」（申命記 30 章 19 節）
 ■内 容：2019 年度の事業・活動報告および 2020 年度活動計画

◎ボランティア募集説明会

- 日 時：2020 年 3 月 14 日（土）14：00～15：30
 ■内 容：京都 YWCA 全体オリエンテーション、各ボランティア活動の説明
 ■対 象：男女年齢問いません。どなたでもどうぞ！
 ■申込み：要予約 3 月 9 日（月）までに京都 YWCA まで
 ※会場はいずれも京都 YWCA

「京都 YWCA 未来応援募金」へのご協力をお願い

「未来応援募金」は京都 YWCA の事業・活動を応援いただく募金です。ご寄付は主に次の目的に当てられます。

◎保育園備品の充実

園児の健やかな成長に応じての備品購入に。

◎サマリア館の幌のリニューアル

W.M. ヴォーリス設計のサマリア館の幌リニューアルに。

◎ユース育成

国内外のプログラムへの若者の参加支援など。

郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

*通信欄に「未来応援募金」とご記入ください。

京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせただくか、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>



ご協力ありがとうございました

2019年12月1日から2020年1月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

鍛冶富美子、中村和雄、田中愛子、
 榎田中工務店、
 日本基督教団京都上賀茂教会、
 日本基督教団京都御幸町教会、匿名

各指定寄付

*未来応援募金

横川宏美、河野伴子、森本栄次、
 石丸千里、別所加恵

一保育園備品募金

横川宏美、今井貴美江、山本千鶴、
 寺田有古、上村愈巳子、竹岡哲朗、
 中村美智子、藤浦真由美、別所加恵、
 有田孝子、ベスタロッツ保育園、

一「れんが」プロジェクト

井上悦子、一色光世、河野伴子、
 今井貴美江、山本千鶴、寺田有古、
 小寺敬子、別所加恵

*世界 YWCA 総会派遣募金

上村愈巳子、安藤いづみ、河野伴子、
 横川宏美、匿名

*親子育ち支援活動委員会

京都東山教会、岩崎明生、寺田有古、
 森雄二郎

*多文化共生委員会

永井靖二、今井貴美江、山田咲希、
 山本光、寺田有古、森のの、
 青木理恵子、田中愛子、匿名

*APT

上内英子、
 リンバラヤラ スプレーニー、
 阿久澤麻理子、宇山進、
 岡佑里子、花崎みさを、吉本和穂、

坂和優、上村愈巳子、西原美那子、
 竹内昌代、東山正明、飯田美奈子、
 北垣由民子、林律、高山亨、近野玲子、
 杉山知子、青木理恵子、仲本直子、
 神門佐千子、匿名、
 平安女学院中高宗教センター、
 ノートルダム教育修道女会、
 ヌーヴェル愛徳修道会、
 京都・東九条・CAN フォーラム、
 同志社中学校

*日韓ユース交流プログラム

実生律子、張善花

*平和・環境活動委員会

今井貴美江、片桐ユズル、
 ベスタロッツ保育園

*ファンドレイジング委員会

宮川信子

*うららかふえ

河野伴子

*自立援助ホーム「カルーナ」

榎本愛美、横川宏美、岡佑里子、
 今井貴美江、寺田有古、小泉小枝、
 小林裕彦、森本純代、水野篤夫、
 斉藤洋子、石田裕明、島崎明子、
 伊東真喜子、井上悦子、吉村佳代子、
 山崎美和子、出店都、匿名、
 京都府更生保護女性連盟 愛の図書、
 日本基督教団空町教会オリーブの会、
 日本基督教団桂教会、
 平安女学院中高宗教センター、
 認定こども園福井聖三一幼稚園

*賛助費

岡昭男

1・2月／理事会報告

- 1/11：多文化共生委員会主催の新年会（日本語学習者、留学生、自立援助ホーム関係者参加）。
- 1/11：自立援助ホーム「カルーナ」新年会（利用者・退所者参加）。京都府更生保護女性連盟の協力（着物着付け、ヘアメイク）を得た。
- 2019 年度末見込みと 2020 年度予算を審議、保育園開園までの日程確認。
- 1/25：第 10 回保育園プロジェクトチーム・ミーティング（最終）開催。開園までおよび開園後の日程確認、保育園事業部委員会の方向性などを確認。
- 2/15：「ユース交流会」および京都 YWCA における「2.11 集会」。
- 2/29：公開講座「トラウマインフォームド・ケア」講師 野坂祐子さん。午後に「里親制度について」説明会開催。
- 100 周年記念誌製作に向けての記録の整理法の検討を開始。
- 出前ワークショップ実施：同志社女子中学・高校（2/14）、平安女学院中学・高校（2/22）。

★テレビで見かけた話題の文具

★行事で使うノベルティ商品

★プレゼントに適した商品

事務機・事務用品の事ならなんでもご相談下さい。



株式会社 正美堂

京都市中京区壬生坊城町25番地

TEL：075-841-4371 FAX：075-811-6590

URL：<http://www.syobido.jp/>

阪急電車京都線「大宮駅」下車

西出口から出て、四条通り沿いに徒歩4分（北側）

KYOTO YWCA No.555 2020 年 3 月号（3月1日発行）

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電 話：(075) 431-0351

F A X：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：<http://kyoto.ywca.or.jp>

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財) 京都 YWCA

定 価：1 部 50 円

発 行：奇数月 1 日発行